

1 研究テーマ

生活科・総合的な学習の時間において、

学ぶ喜びを味わえる授業づくりはどうあったらよいか。

2 研究内容

期 日…平成 21 年 11 月 18 日

会場校…森上小学校

教科及び単元名…生活科 「じんぐみあきひろば 自然とあそぼう 楽しもう」

授業学年及び授業者…1 学年 伊藤 雅世 教諭

- (1) 子どもが自ら関わりたくなるための素材について考えた。
- (2) 「もの、こと、人」と関わる子どもの姿を見合い、考えを出し合う中で、こどもの学ぶ喜びについて考えた。
- (3) 子どもが学ぶ喜びを味わうための支援、評価について考えた。

3 研究の成果

<素材について>

子どもたちが自ら関わりたくなる素材開発として、まず、推進委員会では、学校の周りを共に歩き、考え合った。実際に歩いてみることで、子どもが思わず「触りたい」、「関わりたい」「においをかいでみたい」等の気持ちを持てる物は、意外と身近にあるのではないかということを感じた。同時に、身近にある素材に関わる子どもたちの学びとはどういうもの考えた。そして、生活科の学習においてどんなことを考え教材化していく事が大切なのかを考えていくことができた。

<実際の姿から考えを出し合うこと>

当日の授業では、「ぼくたちのひみつきち」、「ダンボールでかこまれた ツリーハウス」、「おちばプール」、「虫とりたんけんたい」、「木の実のアクセサリーとおもちゃやさん」といった、子ども自身の遊びの中からできたグループで、子どもたちは、一人一人が自由に遊んだ。

研究会では、グループに分かれて実際の子どもたちの姿を話し合った。そこで、

- 子どもたちの自由な遊びの中にこそ本当の学びがあるのではないか。
 - 子ども自身が、感じ・思い・考えたことを実際にやっけていく学習を繰り返すことで、自ら学び考えるという自立の基礎となる学び方を、子どもたちは身につけていくのではないか。
- 大きくこの二点が見えてきたように思う。

<生活科における学ぶ喜びについて>

子どもたちの姿から、遊びの中から下記のようなことが、学び喜びではないかと考えた。